The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	上級クラスにおける語彙・表現の習得拡充に関する一考察 ： 慣用表現から難読漢字までを俯瞰・整理する
Author(s)	平井, 一樹
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2016, 14, p. 77-88
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56944
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

上級クラスにおける語彙・表現の習得拡充に関する一考察
― 慣用表現から難読漢字までを俯瞰・整理する ―

A study of acquisition and expansion of vocabulary and expression in an advanced classes
― Getting a collective view by observing from idiomatic expressions to high level Kanji ―

平井　一樹

【要旨】

上級クラスにおける学習者の語彙・表現の習得拡充のために、限られた学習時間内にどのような語彙・表現をどれだけ提示し、理解・定着・使用を図ればよいのかという、語彙学習の根源的な課題に直面した。そこで独自に 6 年間に渡って収集した新聞・ビジネス雑誌からの語彙・表現を基に教材化への準備のために、約3000語の一部を例示し、整理・考察を行ったものが本稿である。あくまで上級学習者のための語彙・表現はどのようなものがよいのか俯瞰し、全体像を把握することが目的である。

1．はじめに

本稿は、大阪大学日本語日本文化教育センター（以下、CJLC）の大学学部予備教育課程（以下、Uコース）において、語彙・表現の習得の向上を目指して筆者が取り組み、また今後取り組んでいこうとする内容を整理・提示し、教材化の基とするものである。

2015年度のUコースの上級者には「文法・語彙」クラスが用意され、理解語彙（可能な限りの使用語彙）をこれまで以上に増加させるというCJLCの方針の下、クラス担当の一人である筆者は新聞記事やビジネス雑誌などを用いて、文章の文脈において名詞・副詞から文法・慣用表現、ことわざ、四字熟語（故事成語）などを取り上げ、小テストを繰り返しながら記憶に残るような作業を繰り返した。しかし、12月の試験において出題された「二の舞」のような慣用表現の短文作成が芳しくない結果だったことに大きなショックを受けた。当然、慣用表現には膨大な数があり、網羅しきれていなかったということもあるが、慣用表現は漢字文化圏の学習者であっても漢字からの意味の類推は難しく、さらに言えば「四面楚歌」のような故事成語であってもいざ使用語彙・表現として文中で適切に使用できるようになるにはかなりの練習が必要だと考えられる。

2．先行研究

語彙については、古くは「現代雑誌九十種の用語用字」（国立国語研究所1962）から、近年では身体部分を含む慣用表現（秋元 2009）（有薗 2014）、コーパスを用いた語彙研究（丸山 2009）（仁科他 2009）、語彙習得のための協働的学習（藤井 2011）や端末アプリを用いた語彙学習（岩下他 2014）など多種多様な研究がある。さらに昨今はテキスト・マイニングのための形態素解析から意味把握へという自然言語研究や人工知能とロボットによる発話生成のための語彙・表現認識へと進んでいる。これまでマクロ的視点での特定の慣用表現の比較研究や第二言語習得としての語彙習得ストラテジーなどの研究はあったが、本稿で扱うような日本語上級学習者のための語彙・慣用表現を教材化するための概観・整理・厳選というマクロ的視点でコンパクトにまとめたものは少ないように思われる。

３．定義

「慣用表現」とは、慣用句、イディオム、成句、故事成語、四字熟語、流行語、省略語、オノマトペ的表現など、２つ以上の形態素を含み、比喩的表現として生活上習慣的に使用されてきたまとまりのある表現であり、意味を説明的に読み替えることができるものと本稿では定義する。

４．上級学習者が語彙や慣用表現を更に習得する必要性について

日本語能力試験N １を取得している留学生で、４技能の試験でも成績は非常に良いが、レポートや論文、スピーチのようなフォーマルなものになると、表現が平易・平坦すぎたり、長々と説明的すぎるということが多々ある。上級の日本語学習者としてふさわしい評価を得、日本語の表現をより豊かに、そしてネイティブに近い自然な日本語を目指すためにも多彩な語彙と慣用表現を学ぶことが望まれる。また読解や聴解においてもその一語が理解できないがために全体の文意を読み違えるということが慣用表現の理解で発生しがちであり、インプットの面でも重要だと考えられる。

５．対象とする語彙・慣用表現

本稿では筆者が2009年から2015年まで、主要新聞（読売・朝日・毎日）やビジネス雑誌（日経ビジネス、東洋経済など）から、筆者の日本語教師としての経験知に基づいて留学生が理解しづらいだろうもの、また実際の小テストや定期試験で間違いが発生したものなどを随時書き留めた語彙・慣用表現3252個を対象に整理・分類を行う。そのため、これは客観的な基準で選ばれたものではない。しかし、近年の書き言葉コーパスや日本留学試験の語彙による頻出度調査などでは上位にランクされた語彙が必ずしも重要な語とは言えないことや、上位からある程度ランキングが下がると急激に出現度が低く均一化するという結果（保志・平山 2014）が散見されるため、今回はあえて非客観的な手法で収集した語彙クラスターの中から一部を例として使用したい。

６．習得対象として検討可能な語彙・表現の分類と考察

６．１．名詞単独

単独の名詞語彙として主なものを例示する。（表１～表３）比喩的な意味で使われることもあれば、教科書にはあまり出て来ない俗語的なもの、読み方が困難なものを含む。

報道関係では「未明・夜半」や「いたちごっこ」「キセル」「バールのようなもの」といったすぐには想像のつかない用語が頻繁に使用されるため、ニュースの聞き取りなどでネックとなることが多い。また刑事ドラマなどを見ると犯罪関係の用語が出現する。理解語彙としては必要と考えられるが、使用しないように注意が必要だ。経済分野では「うなぎ昇り」「拍車がかかる」「カンフル剤」「アキレス腱」など比喩が使用され、「カンフル剤」も「拍車」も実物はないので、理解が難しい。大学では進学後、各大学の独自の用語が第一関門となる。学生課が「学生オフィス」と言われたり、就職課が「キャリアセンター」、教務課が「〇〇ステーション」であるなどカタカナ語が増加している。また校舎の呼称が難しい大学もある。そして、大学の名物や場所、銅像など固有の物は進学後に教わるしか方法がない。少なくとも全国共通の大学用語はぜひとも習得しておいてほしい。政治関係でもスポーツ用語から使用される語彙が非常に

多い。日本で人気のあるスポーツは相撲と野球であり、やはりそこから転用された語彙が比喩的に用いられるので、留学生は相撲と野球の知識を身に着けることは大切だと言えるかもしれない。「その他」で例示した語彙を見ると「ちんぷんかんぷん」や「ちゃらんぽらん」「根掘り葉掘り」などオノマトペ的なリズム感のある語彙が結構ある。留学生はその語感が面白いらしく、「ちんぷんかんぷん」は中国語の「聴不懂看不懂」みたいだとか、「ざっくばらん」はザックという学生のお気に入りになってしまうなど楽しく学習ができることもある。

（表１）例：

報道	犯罪	経済	大学	スポーツ	その他		
号外	痴漢	うなぎ昇り	キャリアセンター	開幕	行き当たりばったり	すし詰め	なんだかんだ
着の身着のまま	ハイジャック	右肩上がり	墓石階段	千秋楽	ちんぷんかんぷん	けんもほろろ	ちぐはぐ
玉突き事故	コソ泥	カンフル剤	まなびステーション	土が付く	あまのじゃく	二の舞	やぶれかぶれ
未明・夜半	空き巣	たんす預金	スクールバス	黒星白星	あっけらかん	いんちき	引く手あまた
いたちごっこ	ヤク	外為市場	生協	うっちゃる	うたい文句	とんちんかん	右にならえ
ドル箱路線	スリ	インフレ	学食	場外乱闘	しらみつぶし	いわずもがな	ピンからキリまで
同時多発テロ	ホシ	日銀	追試	ノーサイド	ひっぱりだこ	大わらわ	ほくほく顔
みだらな行為	おとり捜査	破綻	院試	継投策	ちゃらんぽらん	でたらめ	上り・下り
行方不明	ネコババ	アベノミクス	M1・D1	外野	ひっちゃかめっちゃか	こてんぱん	パパラッチ
消息筋	出来心	どんぶり勘定	Aノート	続投	箱入り娘	たらい回し	鳴り物入り
泣き寝入り	文化包丁	ガリバー	卒論・修論・博論	サヨナラ劇	しどろもどろ	板前	うやむや
キセル	八百長	ドル箱路線	レジュメ	ボディーブロー	根掘り葉掘り	醍醐味	御曹司
アベック	ドン	赤字・黒字	般教	軍配が上がる	将棋倒し	朝飯前	すすり泣き
無理心中	置き引き	ブラック企業	履修登録	序の口	なしのつぶて	オオカミ少年	かくかくしかじか
たけなわ	堅気	談合	単位	ぎりぎりセーフ	折り紙つき	目白押し	火の車
人身事故	張り込み	年商	セメスター	全員野球	やんやの喝采	ヒヤリハット	図星
心肺停止	聞き込み	アキレス腱	集中講義	ダブルパンチ	宙ぶらりん	うんちく	玄人・素人
あわや大惨事	覚醒剤	天下り	休講・補講	オウンゴール	嘘八百	コロンブスの卵	御の字
バールのようなもの	通り魔	兜町	新歓コンパ	バトンタッチ	至れり尽くせり	へそまがり	引く手あまた
ボヤ	万引き	利ざや	研究室	スクラムを組む	いざこざ	ざっくばらん	使い勝手

次にもう少し幅広い分野を見ていきたい。語彙にはその言語の持つ背景文化や歴史が反映されており、世代的に共有していないものや既に存在しないものも、「過去の言葉」のようなものは、知識として知る必要が無きにしも非ずである。「芸能」や「流行語」も知っている人とのコミュニケーションには非常に有用なものであり、漫画やライトノベルを読んでいる留学生なら知っていることもあり、時折驚かされる。これは「商標」や「若者言葉」でも同じことで、「ねえ、ノーシン持ってる？」という会話があれば、この人は頭痛なのだとすぐに理解できることも大切だろう。「急に予約をキャンセルするのはよくないよ」と言うより「ドタキャンはダメ」のほうが使われやすいかもしれない。「源泉徴収票」を知らず何年間も確定申告しなくて、アルバイトの所得税の還付金を受けていない留学生が大変多い。またアルバイト先や就職先で「ホウレンソウ」と言われてすぐにわからなかった学生もいる。6年間日本にいた学生が「ホッチキス」を言えなかったのは、語彙の世界の広さを物語っている。飲食物の名称に至っては無限といってもよいだろう。なお、宗教起源の語彙については比喩的に使われる場合、「他力本願」が本来の意味と違って誤用されたり、「京都はお寺や神社のメッカである」となっては意味がなさなくなるなど注意が必要だ。その宗教を信じている人々に対する配慮が必要なことも伝えたい。

（表2）例：

過去の言葉	芸能	流行語	商標	宗教起源	若者	労働	ビジネス	道具	食品
ハイカラ	本番	ノンポリ	コアラのマーチ	踏み絵	チャリンコ	確定申告	ホウレンソウ	修正液	松前漬け
モボモガ	カメリハ	ちょっとだけよ	QPマヨネーズ	他力本願（誤用）	リア充	組合	月一	パンチ	ふな寿司
蓄音機	吉本新喜劇	億ション	ゴギブリホイホイ	十字架	ドタキャン	源泉徴収票	ノルマ	ホッチキス	くさや
大本営発表	ロケ	爆買い	ノーシン	免罪符	シフト	健保	コネ	メレンゲ	しょっつる
公衆電話	うたい文句	そんなの関係ねぇ	マクド	メッカ	バイト	厚生年金	自転車操業	すりこぎ	もみじ饅頭
電電公社	お蔵入り	加山雄三（可山優三）	スタバ	お祓い	カテキョ	労災	カンバン方式	おろしがね	きりたんぽ
レーザーディスク	大根役者	有閑マダム	コシヒカリ	洗礼	まじ	春闘	目玉商品	手ぬぐい	ボタン鍋
フロッピーディスク	マンネリ	イケメン	一番搾り	あの世	中二病	ベア	出血大サービス	サドル	ゴーヤーチャンプルー
国鉄	二枚目・三枚目	路チュー	三ツ矢サイダー	地獄	速攻	年功序列	ノウハウ	テコ	バイキング
ブラウン管	ギャラ	イクメン	ウォークマン	お陀仏	合コン	終身雇用	根回し	コテ	ジンギスカン

表3に至ってはまさに「語彙の宇宙」であるが、「レポートを突貫工事で仕上げた。」「永田町は全国から先生が集まってくる。」などが理解できることは重要だ。「セブンイレブン～」とクラスメイトが歌って、「いい気分」と留学生が繋げられれば日本通である。天気予報だけでもかなりの固有の語彙があり、理解できれば天気予報士の話を楽しむこともできよう。「下痢」や「便秘」、「大腸」や「甲状腺」、さらには「おしっこ」「うんこ」を筆者が何年も英語を勉強していても知らなかったことを思えば、日本で生活する留学生には知っておいてほしいと切に願う。

（表３）例：

建築	政治	文化	アルファベット	法律	生活	ジャーナリズム	天気	医療
インフラ	リトマス紙	打ち出の小槌	PR	業務上過失致死罪	どんぶり勘定	スクープ	台風一過	デイケア
大黒柱	地盤・看板・カバン	本音・建て前	CM	冤罪	日常茶飯事	夜討ち朝駆け	下り坂	トラウマ
すきま風	マニフェスト	亭主関白・かかあ天下	NHK	叙情酌量	スズメの涙	特ダネ	～日和	夏ばて
突貫工事	スケープゴート	キャバクラ	PTA	家裁	ウォッシュレット	特派員	春爛漫	ノイローゼ
踊り場	出馬	嫁姑	PTT	地検	～たけなわ	オフレコ	秋たけなわ	神経質
青天井	玉虫色	おみこし	QC	保釈金	パンク	番記者	春一番	心臓麻痺
青写真	永田町	除夜の鐘	NEC	ネズミ捕り	カナヅチ	生放送	冬将軍	高血圧
アンテナ	タカ派・ハト派	一気飲み	OB・OG	留置所	ダイヤ	コラム	エルニーニョ	下痢
リフォーム	親方日の丸	酔っ払い	TOPIX	時効	セブンイレブン、いい気分	チャンネル	梅雨前線	便秘
かさ上げ	レームダック	彼岸	PTDS	９条	三日坊主	マスコミ	夜半・未明	アレルギー

６．２．名詞＋共起動詞、あるいは定型の例

慣用表現には「名詞＋動詞」のものが多いが、名詞側と動詞側で共起制限が存在する場合がある。「的を絞る」「メガホンをとる」などはどちらも入れ替えはできない。「エールを送る」が「エールを交換する」ならいいが、「エールを届ける」となると微妙になってきて、「エールをあげる」では誤用となる。もちろん例外もあり、「～を打つ」「～を覚える」は生産性が高い。「首になる」と「首にする」では全く反対の意味になり、自他動詞の誤用は慣用表現でも致命的だ。

（表４）例：

ヲ格		
エールを送る	波紋を広げる	喜びをかみしめる
物議を醸す	固唾を呑む	常軌を逸する
手をこまねく	面子を立てる	銃弾を浴びる
歯止めをかける	音頭をとる	恩恵を享受する
予断を許さない	つてを頼る	焦燥感を募らせる
ノルマを達成する	メスを入れる	イニシアティブを発揮する
しのぎを削る	メリハリをつける	リーダーシップを発揮する
尾を引く	下駄をはかす	インセンティブを与える
舵を切る	運転を見合わせる	違和感を覚える
タッグを組む	門戸を閉ざす	危惧を覚える
スタンスを取る	待ったをかける	戦慄を覚える
異彩を放つ	大目玉を喰らう	恐怖を覚える
異臭を放つ	白旗を揚げる	首を切る
的を絞る	くさびを打つ	首になる
面目を保つ	舌鼓を打つ	首にする
外交カードを切る	ばくちを打つ	棚上げする
禍根を残す	終止符を打つ	棚に上げる

敗北を喫する	カンフル剤を打つ	キャスチングボートを握る
お茶を濁す	旋風を巻き起こす	スキャンダルをもみ消す
そっぽを向く	重箱の隅をつつく	折り合いをつける
駒を進める	試行錯誤を重ねる	高をくくる
メガホンをとる	実績がものをいう	さじを投げる

（表５）例：

ガ格	二格
めどが立つ	ベールに包まれる
しこりが残る	帳消しになる
拍車がかかる	軌道に乗る
めどが立つ	帰途に着く
片鱗がうかがえる	ニーズにマッチする
看板が泣く	高気圧に覆われる
温度差がある	後手後手になる
厭戦ムードが漂う	佳境に入る
拍車がかかる	後に引けない
魔が差す	琴線に触れる
ダイヤが乱れる	２位に甘んじる
メッキが剥がれる	多岐にわたる
堪忍袋の緒が切れる	膠着状態に陥る
辻褄が合う	棚に上げる
火の粉が降りかかる	たわわに実る

（表６）例：

ない形	受身	使役
命に別状はない	余儀なくされる	犯人を泳がせる
敵はあなどれない	梯を外される	子供を使いにやらせる
あるに越したことはない	コテンパンにやられる	下駄を履かせる
余念がない	度肝を抜かれる	心を躍らせる
あいた口がふさがらない	後ろ髪を引かれる	目にものを言わせる

６．３．名詞＋共起形容詞

慣用表現において形容詞も選択を間違うことが多い。特に母語の干渉による誤用「雨が大きいです。」（中国語話者）などには非常に戸惑う。「残暑」は「厳しい」ものであるが、反対に「今年は残暑が優しい」とは言えない。共起する形容詞の反対語にも気をつけたい。

（表７）例：

名詞＋共起形容詞	
ハードルが高い	敷居が高い
疑いが強い	歯切れが悪い
曜日の並びが悪い	公算が大きい
手際がいい	紛れもない
段取りが悪い	旗色が悪い
心意気が高い	残暑が厳しい
呼び声が高い	懐が寒い

６．４．動詞（単体）

平仮名で表記される動詞は漢字文化圏の留学生の苦手とするところであり、また「無心する」「物色する」は意味を推測できない。「チンする」は毎日電子レンジを使う学生でも知る機会がなければ当然知らず、さらには最近の電子レンジは「チン」という音はしない。

「むしゃくしゃして」「むらむらしたので」という犯罪者の動機を伝えるニュースを理解するにはこれらの動詞を学習しなければならないだろう。

（表８）例：

動詞（単体）			
ぬぐう	鍵となる	抱っこする	浮き彫りにする
はらむ	下落する	棚上げする	猛反発する
ぶれる	算段する	丸投げする	猛反対する
かさむ	凌駕する	ほっとする	猛反省する
しぼむ	無心する	取りざたする	猛勉強する
ばてる	激高する	むらむらする	見込む
どよめく	出頭する	やりくりする	言いそびれる
あらがう	自首する	エスカレートする	相次ぐ
かまける	喝破する	うかうかする	あぶりだす
うごめく	驚愕する	あたふたする	ちらつかせる
こじれる	隠蔽する	うだうだする	はぐらかす
ほおばる	袖にする	もごもごする	いぶかしむ
ねぎらう	完投する	もじもじする	ほうかむりする
かまける	敢闘する	かっとなる	のしかかる
いそしむ	物色する	よいしょする	でっちあげる
目す	一服する	ぎくしゃくする	はばかられる
募る	チンする	むしゃくしゃする	伸び悩む

６．５．慣用句

一字一句変えることのできない定型の言葉が「慣用句」である。「ピンときたら110番」はほぼすべての日本在住の日本語話者なら知っているものと思われるが、「ピンとくる」が何なのかは説明がなければ学習者はピンとこない。慣用句は特に熟考を重ねた例文を用意して、文脈からおのずとわかり、使用語彙・表現となるよう猛練習を重ねたいものである。

（表９）例：

慣用句		
一服の清涼剤	格好の獲物	うつつを抜かす
一つ屋根の下	月とすっぽん	～冥利に尽きる
一寸先は闇	嵐の前の静けさ	お眼鏡にかなう
一世を風靡する	感慨もひとしお	カチンとくる
一筋縄ではいかない	風前の灯	ピンとくる
一枚上手	逃した魚は大きい	大風呂敷を広げる
一糸まとわぬ	財布のひもが固い	同じ釜の飯を食べた
二番煎じ	後塵を拝する	とばっちりを食う
二の舞	奏功する	財布の紐が固い
三行半を突きつける	功を奏する	財布の紐が緩む
氷山の一角	敵に塩を送る	閑古鳥が鳴く
胸突き八丁	秋波を送る	芋の子を洗う
嘘八百	風雲急を告げる	総スカンを喰らう
六十の手習い	心中を察して余りある	ボールは相手にある
断腸の思い	思う壺にはまる	ない袖は振れない
苦肉の策	清水の舞台から飛び降りる	腑に落ちない
至難の業	太鼓判を押す	やぶさかでない
張り子の虎	待ちに待った	歯に衣着せぬ
同じ穴のムジナ	奥歯に物を挟んだような	正気の沙汰ではない

寝耳に水	目くじらを立てる	なきにしもあらず
目白押し	釘を刺す	用を足す
青天の霹靂	肝に銘じる	にっちもさっちもいかない
飛ぶ鳥を落とす勢い	大詰めを迎える	やぶさかではない
あの手この手	そろばんをはじく	満を持して
かくかくしかじか	羹に懲りて膾を吹く	猫も杓子も
あばたもえくぼ	生き馬の目を抜く	いとも簡単に
この指とまれ	白羽の矢が立つ	雨後の竹の子のごとく
何はともあれ	窮鼠猫を噛む	安かろう悪かろう
れっきとした犯罪	石橋をたたいて渡る	予断を許さない

6．6.　形容詞

「な形容詞」や「い形容詞」などは初級の学習者のやることだと思い込んでいる留学生が時々いる。いかにまだ知らない形容詞があるか知ってもらうのが形容詞語彙の学習に必要な第一歩であろう。

（表10）例：

形容詞			
物々しい	おざなりな	大袈裟な	ちぐはぐな
生半可な	月並みな	甚大な	無頓着な
ささやかな	陳腐な	猥褻な	狡猾な
いびつな	露骨な	熾烈な	不毛な
心もとない	うだるような	太っ腹な	やましい

6．7.　副詞

副詞はモダリティを伴い、言語表現を豊かにする最高の、また効率のよい学習項目である。いかに多種多様な副詞を文章や会話に使用しているかで学習者の能力がわかるとも言えよう。「さながら」「なかんずく」「いささか」「こころなしか」などを使えば、さらにネイティブに近づいた日本語となっていくだろうし、「ばかり」を知っている学生でも「ここぞとばかり」という表現は上級者の作文でもなかなかお目にかからない。

（表11）例：

副詞				
いずれも	いささか	しばし	所詮	とたんに
もっぱら	かろうじて	あるまじき	念頭に	あいにく
脈々と	しこたま	こころなしか	図らずも	あながち
よもや	しぶしぶ	ぽろり	きっぱり	ずるずる
あわや	やたら	ちくり	そもそも	まっぴら
あいにく	めっぽう	どっぷり	丹念に	やみくもに
さながら	とんと	皮切りに	一向に	ここぞとばかり
てっきり	おのずと	おおむね	いかんせん	もれなく
なかんずく	じわり	こぞって	いたずらに	たらふく

6．8．三字熟語・四字熟語

「多数の男の中で女の人が一人だけの状態」「状況や相手によって違うことを言う人」など意味で漢字の並びを分解して説明することができるものや「不・無・非」の否定の接頭語が付いていてわかりやすいものもある。「前途多難」は本来の「前途」の意味であるが、JRの切符には「下車前途無効」と書いてあり、下車すれば人生が終わるという印象を中国語話者は受けるらしい。中国語や韓国語などとの違いに気をつけて、あるいはその違いを楽しみながら学習すると面白い。「一石二鳥」は欧米の言語にも同じ言葉がある。

（表12）例：

三字熟語	
間一髪	登竜門
紅一点	白昼夢
青二才	老婆心
二枚舌	不世出
下馬評	無関心
独壇場	非課税

（表13）例：

四字熟語	
前途多難	面目躍如
優柔不断	多士済々
波乱万丈	一石二鳥
前代未聞	日進月歩
言語道断	共存共栄
虎視眈々	疑心暗鬼

6．9．一字難読漢字

ワープロでの文章作成やインターネットでの文章の表示が広まるにつれて、これまで平仮名で表記していた動詞などに漢字が一字使用されることが増加した。一瞬読めない日本語母語話者も多いが、漢字検定などへの挑戦として、またワープロ変換での正しい選択ができる技能として一字の難読漢字も無視できない状況になってきたと言えよう。ただし、日本語の文法に関わる表記は平仮名を使うということを伝えないと「～と言う～」「或いは」「又は」「但し」「若しくは」と使ってしまう学習者も多い。

（表14）例：

一字難読漢字							
倣う	怠る	怯む	糾す	拙い	拘る	貰う	憚かる
抗う	醸す	鑑みる	糺す	閃く	挫く	纏める	跪く
謳う	躓く	佇む	芳しい	煌く	顧みる	甚だ	夥しい
滞る	培う	慄く	弄ぶ	蠢く	被る	惚ける	慮る
捗る	頷く	省みる	拘る	屈む	驕る	煽る	訝しい

6．10．難読熟語

難読漢字の代表と言えば「薔薇」「鬱」など画数の多い漢字であり、非漢字文化圏の漢字が大好きな学習者に書くことができる人がいて驚かされることもある。しかし、それ以外にも日常で使用される複雑な漢字は多く、読めるように、そして適切に使えるように知識を増やしてほしい。

（表15）例：

難読熟語							
傀儡	暖簾	怨念	範疇	咀嚼	贔屓	邁進	軋轢
癇癪	曖昧	喧騒	破綻	躊躇	剽窃	懺悔	絢爛
震撼	慇懃	朦朧	僭越	寵愛	憐憫	逆鱗	蹂躙

6．11. 故事成語

故事成語は中国語母語話者なら問題ないだろうと中国語母語話者を対象に特別に教えることはあまりないが、いざ使おうとすると、どのように日本語の文章中に組み込めばよいかわからないようである。「家族や親戚から反対され、彼は四面楚歌の状況になった。」「与野党が同じ候補者を応援するなど呉越同舟だと批判された。」「杜撰な会計で汚職が暴露された。」「来週は天気が悪そうだが、杞憂であってほしい。」など、実際にどのように使用するのか、例文提示と短作文の作成・添削を繰り返さなければならない。

（表16）例：

故事成語		
呉越同舟	四面楚歌	他山の石
背水の陣	五里霧中	杜撰
漁夫の利	隔靴掻痒	杞憂

6．12. ことわざ

ことわざは初級からよく教えられる教授項目であり、これを好む学習者も多い。留学生に特に役立つものを厳選していきたいが、故事成語と同じく、どのように文中に組み込むのかという指導が必須である。中には「豚に真珠」というようなあまりよくない言葉を正しいと思って覚えている学習者もいるので気をつけたい。また「情けは人のためならず」のように日本語母語話者の中でも意味理解が不安定なことわざもあるので、その事実を伝えるのも興味深く印象に残るだろう。

（表17）例：

ことわざ		
大山鳴動して鼠一匹	郷に入れば郷に従え	火中の栗を拾う
取らぬ狸の皮算用	住めば都	魚心あれば水心
事実は小説より奇なり	百聞は一見にしかず	石の上にも三年
出る杭は打たれる	蛙の子は蛙	雨降って地固まる

7．教材化に向けて

既に例示したものも含めて、これまで収集した3000以上の語彙・表現をさらに精査し、以下の目的を念頭に教材化に向けて例文や解説を作成していくつもりである。

- 大学進学後の生活で必要な語彙・表現
- 上級者がさらにネイティブに近づくために求められる「こなれた」語彙・表現
- 発話やライティングでいわゆる「留学生日本語」を超えたレベルの豊かな語彙・表現
- 聴解や読解で理解でき、聞き逃しで理解を損ねないようにするための語彙・表現
- 大衆文化やサブカルチャーが理解でき、日本語学習の更なるモチベーションや喜び、自信となるような語彙・表現

8．おわりに

語学学習における語彙習得数の増量は大変重要なものであり、本年度の初めCJLCからそのような方針が示された時は正にその通りだと感じた。しかし、いざ取り組み始めると、上級クラスの場合、例えば日本留学試験の問題程度では動植物の名称が時々わからない程度で、小テストをすると常に満点を取るほどの語彙力である。そこで社説やビジネス雑誌に使われる語彙や文法・慣用表現を抽出して語彙表を作成し、速読をさせると「読めない」「知っているつもりだったが本当の意味がわからない」ということになった。ただ、慣用表現といっても膨大な数があり、どれだけやってもゴールは見えない。語学学習自体が大海原に航海に出る冒険のようなものであり、島や大陸がどこにあるかわからないと不安で仕方がない。教師の役割はそこに「航海図」を提示することであり、暗礁に乗り上げることなく、途方に暮れてあきらめることなく、学習を継続していけるように補助することである。語彙学習という大旅行も支援できるように、語彙を取捨選択し、忘れがたいほどのインパクトのある例文、そしてわかりやすい解説を付した教材を至急作成したいと考えている。本稿では、語彙・慣用表現の例示と分類程度に終わり、決して客観的ではなく、果たしてどこまで「語彙」を俯瞰・整理できたか甚だ疑問であるが、留学生のためにこの取り組みは一生続けていく所存である。

＜参考文献＞

秋元美晴（2009）「日本語教育から見たことばと文化：身体語彙を含む慣用句を中心に」『外国語学研究』(10), pp.175-185 大東文化大学大学院外国語学研究科

天野裕子（2014）「日本語語彙学習ストラテジー研究の動向と課題」『Integrated Sciences for Global Society Studies』(1) pp.1-8 九州大学大学院地球社会統合科学府

有薗智美（2014）「〈物事との関与〉を表す表現の意味の成立：「手」,「足」の慣用句」『名古屋学院大学論集言語・文化篇』25（2), pp.79-95 名古屋学院大学総合研究所

石井久雄、入江さやか（2015）「『中央公論』101年間語彙表」『同志社日本語研究』. 別刊（2）同志社大学

岩下真澄、石澤徹、伊志嶺安博、桜木ともみ、松下達彦（2014）「語彙学習アプリ教材の使用感調査：大学での学習を支える語彙力育成を目指した教材開発に向けて」『日本語教育方法研究会誌』21（1）pp.64-65　日本語教育方法研究会

内田諭、藤井聖（2015）「クラスター分析とフレーム分析による語彙のジャンル別特徴：「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を用いて」『言語文化論究』(34) pp.21-34 九州大学大学院言語文化研究院

スルダノヴィッチ・イレーナ、ベケシュ・アンドレイ、仁科喜久子（2009）「コーパスに基づいた語彙シラバス作成に向けて―推量的副詞と文末モダリティの共起を中心にして―」『日本語教育』142号pp.69-79 日本語教育学会

玉村文郎（1976）「現代形容語彙の構造：「分類語彙表」の「相の類」の分析」『同志社国文学』(11) pp.1-11 同志社大学

徳弘康代（2005）「中上級学習者のための漢字語彙の選択とその提示法の研究－学習指標値の設定と概念地図作成の試み－」『日本語教育』127号 pp.41-50 日本語教育学会

藤井みゆき（2011）「語彙習得を目指す読解の協働的学習の活用」『同志社大学日本語・日本文化研究』(9) pp. 80-94 同志社大学

保志茂寿、平山允子（2014）「日本留学試験「日本語」に基づいた語彙リスト（2010 ～ 2013年版）の作成」『独

立行政法人日本学生支援機構日本語教育センター紀要』(10) pp.1-14 日本学生支援機構
丸山岳彦（2009)「作文の文体情報―『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から見えるもの―」『日本語教育』140号 pp.26-36日本語教育学会
森田良行（2000)「語彙・意味・文法」『日本語教育』106号 pp.1-6日本語教育学会

（ひらい　かずき　本センター非常勤講師）